

市民と市長との意見交換会<両津地区>質疑要旨

日時：令和5年6月10日（土）19:20~20:15 会場：岩首多目的研修センター

参加人数：19名

1. 市政について

市長より説明	(説明内容) ○トキエアについて ○両津港の改修について ○暮れの災害、防災について ○コロナの状況について ○行政職員を語る詐欺について ○新潟交通について
--------	---

2. 質疑や意見

質問者 (居住地区)	意見の要旨	市長の回答	関係部署
岩首	防災ラジオについて。雪害の際には活用されなかった印象がある。集落民に情報を発信するという用途として合っているのか。	岩首でいうと多目的センターに情報をすべて持ってこようと思っている。防災ラジオは電源があるうちは使えるが、そうであっても紙の情報というのは必要だと思う。音だけだと十分に情報が伝わらないので「見える化」した方が良いと思う。ラジオのバッテリー交換についても25000戸すべて変えとなると相当な金額になるため、他の方法を考えている。タブレットを1家に1台配布する方法も考えているがコスト面で国からお金を出してもらえるかどうかというのも課題である。	防災課
岩首	災害時の倒竹を伐採したのだが、クリーンセンター持ち込みの場合、50cmに切れという指示は高齢者にはできない。片野尾漁港も竹置き場になっているようだが、そこまでも持っていけない。切ってそのまま放置しているので行政で取りに来て処分してもらえないだろうか。もしくはチップにしてほしい。	地域コミュニティ交付金という制度があるので区長や集落間で合意を得られればそれに使ってほしい。チップ化は事業としてあるが、間に合っていないので市としてもかなり困っている。また、個人としての依頼だと中々難しいので、集落の中で協力して1か所に運んでくれれば何とかチップ化したいと思っている。	防災課
岩首	地域振興局に既に要望している柿野浦～松ヶ崎の県道拡幅工事が進まないの、佐渡市として県に催促してほしい。	県道については強く要望している。知事とも話した。我々にとって佐渡一周線というのは急いでやらなければいけない箇所だという認識なので、今回いただいた要望も県の道路部長に伝える。	新潟県佐渡地域振興局 建設課
岩首	岩首集落は平成29年4月24日の土石流によってかなりの被害にあった。川の上流の右岸の方が、かなりえぐれて佐渡市に改修をお願いして見積もりまで取っていた。ところが平成30年に今度は下流で地滑りが発生して、上流の右岸の工事が着手できなかった。その1年半後に工事の再開をお願いしたがその予算はもうないと言われた。災害で起きた破損をそのままにしておく、次の災害時にもっとひどい被害が出る恐れがあるため、是非、その辺の予算をつけていただきたい。	その時の予算の内容はわからないが、工事は市の予算か県の予算かで違うので、そこがわからないと説明できない。後日、建設部の方から回答させる。	観光振興課 建設課
岩首	今回の雪害で停電が続く中、電気がないとうしようもない事を痛感した。避難所の拠点となる場所に太陽光パネルを設置してもらうことは可能か。	太陽光パネルよりEVカーからの発電の方がコストが安いと思う。それでも1か所400～500万円かかる。発電機でもできるが太陽光パネルは難しい。EVカーもしくは発電機というところで国と話している。	総合政策課

質問者 (居住地区)	意見の要旨	市長の回答	関係部署
柿野浦	地域コミュニティ交付金について。内容文を見たが、目的がはっきりしないというか、どこにターゲットを置いているのかわかりづらい。最初の交付金の際は高齢者支援の内容だったが今回は何に使っても良いという事なのか。空き家に使っても良いのか。	最初の交付金は、個人でできないものを集落で共同でやりたいができない部分を業者に依頼してその部分を支援しましょうという趣旨である。その中に高齢者支援も当然入っている。今回も同様。危険な箇所や場所に焦点を当てている。空き家についても集落で今すぐに直さなければ危険だと判断をしたのならば対象になる。	地域づくり課 両津支所
岩首	高齢者の検診について。胃がんと大腸がんの検査は岩首連絡所まで来てくれるが、肺がんの検診については両津総合体育館まで行かなければいけない。肺がんについても来てもらえないのか。	レントゲン検査単体では、健診としてはあまり有効ではなく、総合健診のほうが有効・重要なのでこちらから出向いている。	健康医療対策課
岩首	带状疱疹のワクチン接種の助成制度について。基本は保険適用にならないので個人負担になる。希望者はこれを2回接種しなければいけない。南魚沼市で助成制度ができたが佐渡市もこれを適用してもらえないか。	この助成制度をつくったのは南魚沼市だけ。ほかの市町村はやっていない。このワクチンは発症予防効果の持続期間、また接種費用と医療費といった費用対効果などの検証が必要であることについて今、議論している。	健康医療対策課
柿野浦	柿野浦集落に平成7年から鼓童が研修所をつくって、そこに若者が多く住んでいる。そこでは太鼓だけではなく稲作や畑もやっている。その研修生も移住定住の助成金を適用してもらえないか。現状では移住定住の制度の対象者にはなっていないので、個人ではなく研修所自体を対象としてほしい。	まず、佐渡の子供たちが卒業して佐渡に残った時にお金を出すのか。私はそうではなくキャリアアップのための支援を強化したいと思っている。鼓童の研修生に関して、試験に落ちた人はその後、あまり佐渡に残らないと聞いた。なので助成金に関しては今は考えていない。また鼓童だけに助成金や補助金を出すというわけにもいかないので線引きが難しい。移住者ではなく研修生としての支援はもしかしたら可能かもしれないが、いずれにせよ議論が必要だ。	移住交流推進課